

「電気自転車」

Agora(JALの情報誌)1月号を読んでいたら、こんな記事がありました。
とっても興味がありましたからご紹介いたします。

電気自動車疾走中

中国上海からの記事です。

中国では、電動アシスト自転車が人気なのだそう。

通常の自転車のようにペダルが付いた型もあるが、日本と違い、形や外見はスクーター形式のものも多い。

見分けのポイントは後部に排気口が有るか無いかだ。

最近、中国都市部ではこうした電気自動車の普及が急速に進んでいる。

現在、中国での電気自動車の年間販売台数は2200万台。

日本では約30万台といわれているから、その70倍規模だ。

10年前には数十万台しか販売されなかったことからすると、中国での普及が「革命的な早さ」だったことは間違いない。

通勤途中、街中を意識して見ると、自転車やバイクなど二輪車全体の10台に6台程度は電気自転車という印象だ。

なぜ中国でこれほど急速に電気自転車が普及したのか？

「お手軽さ以外の何ものでもない」

家庭や職場で簡単に充電できることだ。

毎日の電気自転車通勤では、一般の自転車置き場に停めると、前方にある10キロほどの大型の電池を取り外し、それを職場のコンセントにつなぎ充電。帰宅するときには再び自転車に取り付ける。

これが日課になると、普通の自転車には乗れないという

そして何より、価格が2000元～3000元(約27000円～4万円)で、一般労働者の平均賃金程度と手の届く範囲内というのが大きい。

制限速度20キロなのだが、車道をバイクやスクーターと同じスピードで走っているものもいる。

免許も不要、ナンバープレートも不要。

最近では電動自転車の商業利用も進んでいる。

誰もが働き始めたその日から乗れる手軽さは雇い主にとっても魅力的なのだ。

ただ、こんな問題も起きている。

「バイクと違って音をほとんど出さない電気自転車は気配を察知しにくい。その為に自己も少くない。」

<コメント>

最近、中国には行っていないので、私には一昔前のバイクの排気ガスだらけのイメージしかない。
空気も綺麗になり、環境にも良いことではないか？

これだけでも中国の発展のスピード、エネルギーを感じさせられます。

しかし、日本での電気自動車はまだ高い！

もしこれが3～4万円以内で、買えるとなると日本でも一気に爆発的なブームがくるのではないか？

その為には、今までの価値観を変える規制緩和が必要条件となる

警察や国交省などの官僚組織が、いろいろな条件を出して普及することを邪魔するに違いない。